

外日角 コミュニティ・スクールだより



4月22日に第1回の学校運営協議会が開かれ、協議会設置の目的を共通理解し、今後の在り方を検討しました。そして、コミュニティ・スクールで取り組む内容について、6月の第2回・9月の第3回協議会と回を重ね、その内容について検討し、少しずつ取組を進めてきました。学校便りでもその一端を紹介させていただき、また新聞報道でも紹介されたところです。取組の4本柱の進捗状況について報告させていただきます。また、7月に実施した学校評価のまとめについてもご意見を頂きました。



<プラン1：挨拶運動>

児童・保護者・地域の方々が連携し、積極的に挨拶運動を行い、地域を活性化する！



- ★児童会の企画委員会と6年生が協力し、挨拶で学校を盛り上げる「外小を挨拶の花で満開に」運動を行う。
- ★企画委員会中心に「子ども挨拶宣言」を作成しチラシやポスターとして地域に知らせ協力をお願いする。
- ★毎月1日、15日に校長・PTA会長も飯田洋服店前交差点で挨拶運動実施、児童会の児童も行う。
- ★「子ども挨拶宣言」を受け、PTA役員会・常任委員会からのメッセージを作成し地域に知らせ協力をお願いする。



<プラン2：読書活動の充実>

学校・保護者が連携、積極的に読書活動を行い、児童の豊かな心の育成を図るようにする！

- ★図書ボランティアさんによるミニミニお話会やイベント（ブラックパネルシアター・朝の読み聞かせ等）を行う。
- ★図書委員会がイベント（朝の読み聞かせや読書賞の表彰等）を行う。
- ★給食と読書のコラボ「絵本から飛び出した給食メニュー」実施。
- ★ふれあい家庭読書取組カードを活用する。

本は心の栄養ですね！





<プラン3：グラウンド・ゴルフ>

児童と地域の方々が共に活動し、
なかよくなって地域を盛り上げる！



- ★4年生を中心に、地域の方々とグラウンド・ゴルフを通してなかよくなる。（教えてもらう）
- ★地域の方々と触れ合う中で、多くのことを学んで学校生活に生かす。



<プラン4：環境について考えよう>

渡りチョウのアサギマダラに立ち寄ってもらうために、
好物のフジバカマを増やす際に、地域の方々にも協力し
てもらい、地域の方と連携し素敵なるふるさとにする！



植物を植える体験で、
きれいなチョウが見られ
たら良いですね。

- ★5年生が環境学習として、海辺の生き物や植物を学習する。その一環として、アサギマダラの存在を知り、立ち寄ってもらえるように、フジバカマを植栽する。
- ★フジバカマを増やし、来年度は自宅や地域に配り、フジバカマを地域全体に増やし、アサギマダラを通して環境学習を進める。





<学校評価について>

1 保護者評価より

- ・概ね良いとの評価であるが、今後も評価が上がるように努力してほしい。特に70%以下の項目に対して、知恵を出して、みんなで活動しなければならないと思う。
- ・学校は多様な考えや価値観の中、精一杯の対応・改善策の提示等をしている。
- ・保護者は学校を信頼しているように思えた。質問内容からは、学校に対して協力的で、一緒に子どもを育てていくという雰囲気を感じた。
- ・保護者とは概ね良好な関係が築かれている。
- ・学校に相談するという事は保護者にとってはハードルが高いのではないと思われる。「学校に連絡＝おおごと」と感じているように思われる。何らかの形でコミュニケーションを取り、フォローすると良い。
- ・「子どもたちが進んで挨拶をしている」が80%を超えていても低く感じる。挨拶は大事。90%以上になるよう重点的な対応が必要だと思う。
- ・挨拶の不徹底については、義務としての挨拶よりも、習慣としての挨拶、そして挨拶がもたらす爽快感や自他に与える影響力を子どもたち一人一人が実感できるような指導や声かけの必要性を強く感じた。

2 児童評価より

- ・高学年ほど「学校が楽しい」の数値が低くなるのが気になる。内面の感情を外に出さないからだろう。原因は人間関係や勉強等様々で把握は難しいだろうが子どもに寄り添ってほしい。
- ・自己肯定感の低さが目立つ。一人一人の良さを認め合い、自分の良さを自覚できるような機会を増やしてほしい。今後も学校や家庭・地域等、様々な場面で、子どもたちが主体的に活躍できる場が必要であると思われる。
- ・分からないことについて先生に質問するという事を、もっと習慣化できたらよい。
- ・人間関係力は同年代の子どもが過ごす学校で、自己肯定感や家庭で育てるとよい。
- ・家庭読書の保護者評価が低い。一層の推進を。
- ・早寝・早起きの取組が必要と思われる。
- ・将来の夢や目標を持てる児童が増えるように、今後も夢について話す機会を増やしてほしい。

3 教職員評価より

- ・30人あまりの児童と関わる担任の先生の負担は大きい。
- ・子どもにとって先生の存在は大きいので、心に余裕を持って子どもに接してほしい。家庭での親の接し方にも同じ事が言える。
- ・子どもの良さを伸ばすため子どもの話にできるだけ耳を傾けてほしい。
- ・挨拶運動・いじめ問題等、子どものサインを見逃さないで親として見本を見せなければならないと思う。「子どもは親の背中を見て育つ」とも言われている。親と子どもがいつも話のできる家庭であれば良いと思う。そして、何かあれば学校の先生に相談して連携すると、解決方法が見つかるのではないかとと思う。

いただいたご意見をもとに、学校改善に向けてより一層の努力をして参りたいと考えておりますので、今後とも関係の皆様のご協力をお願いいたします。学校運営協議会委員の皆様、貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。